

筑波大学附属病院内につくばスポーツ医学・健康科学センターを設置

病院総務部総務課

10月1日(木)、けがをしたアスリートの早期復帰を支援し、国民の健康増進を目的とする「つくばスポーツ医学・健康科学センター」が附属病院内に設置されました。

本センターは、国内屈指のトレーナーが多数在籍している本学体育系、日本トップクラスの診療・リハビリ体制を整備した医学医療系の両者が連携を図ることで、手術からリハビリへの一貫したケアが可能となります。

また、スポーツ医学の新たな治療法の開発やトップアスリートの障害予防及び早期復帰だけでなく、スポーツ医学における人材育成や国民の健康増進及び医療費の削減など様々な効果が期待されています。



説明する山崎 正志 副病院長



記者会見の様子(左から松村 明 病院長, 山口 香 准教授, 安藤 梢 選手, 永田 恭介 学長)

ホーチミン医科薬科大学学長が本院を来訪

国際連携推進室

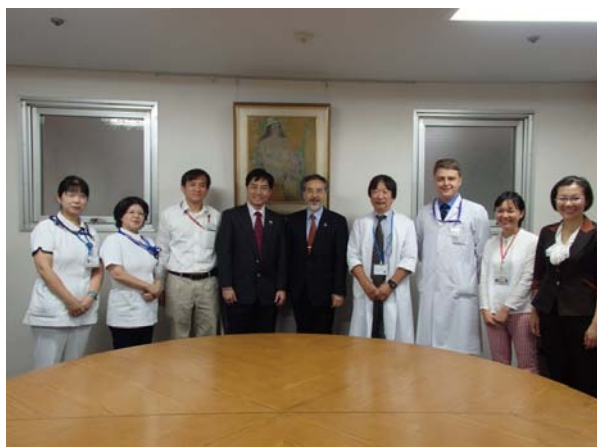
9月30日(水)、ベトナム・ホーチミン医科薬科大学学長のチャン・ディエプ・トゥアン(Tran・Diep・Tuan)氏が本院を訪れました。

今回は、同氏がホーチミン医科薬科大学学長に就任後初めての訪問であり、本学及び本院との今後の交流のあり方や、更なる関係の強化を目的としたものです。また同時に、つくばグローバルサイエンスウィークのオープニング及びクロージング・セレモニーにも出席しました。

はじめに、秋山 稔 国際連携推進室長より病院概要の説明があり、その後、院内視察としてビジネス病棟やICU・救急部などを見学し、同氏から多くの質問がありました。

その後、松村 明 附属病院長との懇談がもたれ、ホーチミン医科薬科大学と本院の相互交流をより深めていくための話し合いがされ、今後のよりよい相互交流を築くためのアイデアや、受け入れ可能な研修内容など具体的な交流強化の話し合いもすすめられました。帰国前には同氏より、本院内視察

や松村 明 附属病院長との懇談が大変印象に残り満足できるものであった旨の報告もありました。今後の活発な相互交流がますます期待される訪問となりました。



懇談後の松村 明 病院長と記念撮影



熱心に説明を聞くホーチミン医科薬科大学長

Tsukuba Global Science Week 2015 へ参加するために来日された協定校等 代表者が筑波大学附属病院陽子線医学利用研究センターを来訪

陽子線医学利用研究センター

去る9月28日から30日に開催されたTsukuba Global Science Week 2015へ参加するために来日した本学協定校2校、国立台湾大学（台湾）、カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ）と今後交流を検討しているホーチミン市医科薬科大学（ベトナム）の代表者が筑波大学の医学分野における積極的な交流を目的に本院の陽子線医学利用研究センターを来訪しました。

本院の陽子線治療は国内外で歴史と実績を有する特徴的な医療のひとつです。参加校の中でも、陽子線治療の立ち上げを検討している国立台湾大学からは、特に治療に関する具体的な質問がなされました。今回の施設見学やディスカッションを通じて、陽子線治療をはじめとした本学ならではのユニークな医療分野をベースとした筑波大学と各国の学生間の活発な交流が期待されます。



会議室にて



シンクロトン装置を視察する一行

BiVi つくば」にて市民公開講座『腎臓病教室へようこそ』を開催

病院総務部総務課

9月26日(土)13時から、TXつくば駅前の複合商業施設「BiVi つくば」2階総合インフォメーションセンターにおいて、「BiVi つくば」オープニング月間イベントの一つとして、市民公開講座『腎臓病教室へようこそ』が開催されました。

本教室は院内で患者さん向けに年4回定期的に開催しており、今回はさらに慢性腎臓病の啓発活動のため、一般市民を対象に院外での市民公開講座として実施しました。

教室では、腎臓内科医師、検査技師、看護師、管理栄養士、理学療法士の各講師により、腎臓の働きと治療、腎臓病の検査の仕組み、腎臓を守る生活管理、腎臓病を防ぐ減塩のコツ、腎臓病にいい運動、などの講義を行いました。分かりやすい講義に、参加した35名の市民の皆さんは、腎臓病の原因、対策、予防策等に熱心に聞き入っていました。

なお、「BiVi つくば」は9月5日にオープンし、同施設の2階には筑波大学サテライトオフィスが設けられています。筑波大学の情報発信の拠点として、大学に関する情報提供や学内の研究成果を紹介するとともに、つくば市と共用のオープンスペースを利用して様々なイベントが随時開催される予定です。



筑波大学サテライトオフィス入口



市民公開講座『腎臓病教室へようこそ』の様子

茨城県内初の「こどものサイコロジカルファーストエイド（PFA）」研修会を開催

病院総務部総務課

10月17日（土）に健康医科学イノベーション棟8F講堂ほか3会場にて、本学医学医療系災害精神支援学講座と（社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの共催のもと、茨城県、茨城県教育委員会、つくば市等から支援を受け、茨城県内初めての「こどものサイコロジカルファーストエイド（PFA）」研修会が開催されました。

こどものPFAとは「災害、事故などの緊急時、誰もができる子どもの心の応急ケアについて学ぶ」というもので、子どものための心理的応急処置として、現時点で世界標準のスキルトレーニングと考えられており、世界保健機関（WHO）も2011年にマニュアルを作成するなど、世界をはじめ日本国内にも普及が始まっているものです。

研修会には、県内の小児科医、精神科医等の医師、保健師、看護師、臨床心理士、また、保育士、小学校教員、消防隊員等、災害時に対応が必要とされる職種90名近くが集まり、真剣なロールプレイ、熱心な討論を行いました。今回、子ども関連の多職種の方々が多く集まったことにより、今後のネットワークが形成されていくと期待されます。

また、9月10日（木）の大雨による鬼怒川の堤防決壊では、常総市に多大なる水害被害が起きましたが、災害はいつ起こるか予測できないものであり、今後も平時におけるPFA等のトレーニングを継続的に開催し、多くの方々がこころの支援手法を習得できるよう支援していきます。



講習を受ける参加者たち



研修会に参加した方との一同に会して

ベトナム・チョーライ病院と筑波大学附属病院との第7回テレカンファレンス

国際連携推進室

平成27年10月2日（金）に筑波大学附属病院と南部ベトナムの拠点病院であるチョーライ病院との間で第7回テレカンファレンスが実施されました。今回は現在実施されている平成27年度度医療技術等国際展開推進事業の一環としての実施で、これまで長い間協力している心臓血管外科に関するカンファレンスでした。また、ベトナム側からの要望があり今回フエ中央病院が初めてオブザーバー参加となり、九州大学病院を含めた4か所を結ぶカンファレンスとなりました。

参加者はチョーライ病院からは心臓血管外科医師など約10名、筑波大学附属病院からは心臓血管外科スタッフおよび学生など計約20名、九州大学から通信システム支援で1名、フエ中央病院から研修担当医師など3名が参加しました。チョーライ病院からは妊婦の解離性大動脈瘤の症例、筑波大学附属病院からは弓部大動脈瘤に対する頸部分枝にバイパスを作成してからステントグラフト手術を行う

Debranched TEVAR を施行した症例に関する発表があり、それぞれの症例に関して活発な討論が行われました。

今回は初めてベトナム側はチョーライ病院以外の病院である中部のフエ中央病院からの参加があり、技術的な接続は順調でした。そのほかにも参加希望があるため今後いくつかの病院を含めたマルチなテレカンファレンスとして発展していく予定です。



本院心臓血管外科チーム（坂本 裕昭 講師，平松祐司 教授，Bui Quoc Thanh 臨床修練医師）と秋山 稔 国際連携推進室長



テレカンファレンスの様子

ベトナム・チョーライ病院と筑波大学附属病院との第8回テレカンファレンス

国際連携推進室

平成 27 年 10 月 19 日（月）に筑波大学附属病院と協定締結病院のチョーライ病院との間で第 8 回テレカンファレンスを実施しました。今回はハノイ市の 108 病院と前回に引き続きフエ中央病院もオブザーバーとして参加し、九州大学病院からはベトナムからの短期研修生 3 名が参加し、5 か所を結ぶカンファレンスでした。

チョーライ病院からは消化器外科医師など約 10 名、筑波大学附属病院からは消化器外科スタッフおよび学生など計約 15 名、九州大学から約 5 名、108 病院とフエ中央病院から消化器外科医および研修担当医師など約 10 名が参加しました。

チョーライ病院からは 2010 年～2014 年の肝腫瘍科(Cancer Center 内)の症例報告と肝切除術症例、筑波大学附属病院からは 3D コンピュータグラフィックによる手術シミュレーションシステムに関する発表（医工芸連携による次世代コンピュータ外科手術支援について）があり、手術の方法（手順）について等活発な討論が行われました。

今回は初めての 5 か所を結ぶカンファレンスで、時折接続の調子が悪くなり、中断してしまいましたが、いくつかの病院を含めたマルチなテレカンファレンスとして発展させていく予定です。



消化器外科テレカンファレンスの様子（総合臨床教育センター遠隔討議室にて）

茨城県議会保健福祉委員会委員との意見交換会が行われました

病院総務部総務課

10月5日（月）附属病院A棟3階特別第三会議室において、茨城県議会保健福祉委員会委員と病院執行部との地域医療及び県等との連携に関する意見交換が行われました。

この意見交換会は、茨城県議会保健福祉委員会による、県内医療機関に対する調査の一環として実施されたものです。

まず始めに、石田 進 保健福祉委員会委員長からの挨拶に続いて、松村 明 病院長から本院の各種取り組み等、水谷 太郎 副病院長から本院が計画している高度救命救急センターの整備、小泉 仁子 副病院長から看護師特定行為研修、原 尚人 副病院長から茨城県との連携及び地域医療への貢献及び取り組み、浜野 淳 医療連携患者相談センター部長から地域中核病院との連携について、それぞれ説明がありました。

その後意見交換が行われ、出席した委員から、地域医療等に関する様々な質問及び要望等があり、茨城県内の地域医療について本院の更なる貢献が期待されていることを、改めて認識しました。



挨拶をする石田保健福祉委員会委員長



本院の取り組みについて説明する松村病院長

「臓器移植月間イベント」を開催

病院総務部総務課

10月16日（金）、病院正面エントランスにて「臓器移植月間イベント」が開催されました。毎年10月は「臓器移植普及推進月間」となっており、臓器移植の一層の定着・推進を図るため、広く国民に対して臓器移植の現状を周知するとともに、移植医療に対する理解と協力のための普及啓発を行っております。

イベント当日は、来院した患者さんに臓器提供に関する意思表示カードや臓器移植を理解いただくためのパンフレットを配付し、今後の臓器移植推進への理解を深めていただきました。



イベントの様子

◎ 9月紹介患者月別調査表

	(A) 紹介患者 数(人)	(B) 逆紹介患 者数(人)	(C) 救急自動車による 搬入患者数(人) (上記のうち初診患者数 をC'とし、内数で表す)	(D) 初診患者数(人) (上記のうち休日等6 歳未満患者数をD'と し、内数で表す)	医療法上 の紹介率 (A+B+C') ÷(B+D) (%)
9月	1,453	1,194	339	1,781	91.3

◎ 9月院外処方せん発行枚数等

	診療 日数 (日)	発行処方せん 総枚数(枚)	うち 院外発行処方 せん枚数(枚)	院外処方せん 発行率(%)	1日平均 処方せん 枚数(枚)	1日平均院外 処方せん枚数 (枚)
9月	19	16,063	14,236	88.63	845.4	749.3

◎ 9月曜日別外来患者数

	曜日	月	火	水	木	金
9月	平均	1,919人	1,597人	1,735人	1,783人	1,629人
	最高	2,065人	1,713人	1,863人	1,924人	1,820人
	最低	1,814人	1,457人	1,591人	1,408人	1,551人

◎ 9月患者数

	入 院			外 来	
	延 数 (人)	1日平均数 (人)	病床稼働率 (%)	延 数 (人)	1日平均数 (人)
9月	19,982	666.1	83.3	33,179	1,746.3

病院ニュースは、次のアドレスでご覧になれます。

<http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/innai/news/> (院内のみ)

病院HPでも一部抜粋して掲載しています。

<http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/>

「病院ニュース」の次回(446号)の発行は11月30日(月)、原稿締切りは11月20日(金)となります。

「病院ニュース」への寄稿に際しては、できる限り電子ファイル等をお願いします。

なお、掲載情報については、文教速報(官庁通信社発行)等学外へ提供することがありますので、あらかじめご了承ください。

e-mail:hsp.somuka@un.tsukuba.ac.jp 病院総務部総務課総務担当(3519, 3521)